



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子 ☎047-767-5030

伊原 忠 ☎047-488-7207

飯川英樹 ☎080-1239-8132

日本共産党八千代市議団メール: kyousan@jcp-yachiyo.jp

日本共産党
八千代市議団
ホームページ

<https://jcp-yachiyo.jp>



第655号

2024年11月25日

発行

日本共産党

八千代市議会議員団

八千代市大和田新田

312-5

八千代市総合計画と想定人口 萱田南小学校開校時に「将来なくなる？」

今から17年前、2007年に萱田南小学校が萱田小学校分離新設校として開校した当時、「将来統合する」という話があったことについて9月議会で確認したところ、「将来的には再編成を行い母体校との統合も視野に入れる」という開校当時の通学区域審議会の記録が残っているという市の回答がありました。



しかしどうでしょうか、現時点でも中高層マンションが増え続けている現状から、萱田小学校への統合は許されないし、ありえないのではないのでしょうか。

人口増加の中で「なぜ学校を減らすのか？」

八千代市は市政施行して以来、最上位計画として「総合計画」・「都市マスタープラン」を策定し、その都度想定人口を定め、まちづくりを進めています。

日本共産党は議会において、八千代市が今までに策定した「総合計画」の前後期含め8回分の想定人口と実績値について指摘しました。(裏面にグラフを掲載)



はじめての総合計画では現在の人口を超える想定だった!?

八千代市政施行後間もない1971年(人口7万1千689人)、はじめて策定した「総合計画」では、14年後(1985年)の想定人口を22万人(約3倍)としていました。これは現在の人口を超える数字ですが、実際には14万2千529人と想定の半分にも満たない実績値でした。八千代市では、グラフのように2016年策定の第4次総合計画後期基本計画が始まるまで人口が過剰に増える傾向で想定していたのです。

東葉高速開通、土地区画整理事業への期待感が裏目に

八千代市ではグラフの通り、バブル崩壊があったものの東葉高速鉄道の開通、土地区画整理事業の進捗などから人口増加を過大に想定した計画を策定しました。しかし想定通りに人口が増えなかった為に総合計画の下位全ての計画にも影響を及ぼしたものと考えられます。

なお、当時の日本共産党は、バブル崩壊を受けて「従前の開発計画は見直しすべき」と提案しています。

人口減少を想定したまちづくりの問題

2014年、国によって定められた「まち・ひと・しごと創生法」によって、人口増加ピークの先の人口減少を見据えた計画を進めるようになってからは、八千代市が想定した人口にたいして実績値が上回るようになりました。

しかし、想定人口よりも人口が増えることで、まちづくりの計画は市民の生活に追い付かなくなっています。すでに人口増加が著しい緑が丘地域では、小中学校等が不足するなど、大きな問題になっています。

学校不足の背景は、緑が丘地域では土地区画整理事業の見直しにより、当初予定されていた、中学校1校・小学校2校という計画が、中学校はなくなり、小学校は1校だけに変更されたことです。

一方で、2021年に策定された「公共施設等個別施設計画」では、多くの小学校を対象に「統合を検討」と記載されたままになっています。

日本共産党八千代市議団は、「実態にあった計画の見直し」を求めるとともに学校等の統合について、「関係者や住民の意見を聞いて、慎重に対応すべきと求めるべき」と求めています。

八千代市総合計画の想定人口と実績値について(グラフ)

